

第38回黒部川土砂管理協議会 議事録

●開催要件

○開催日時 平成27年5月25日(月) 10:00~12:00

○会場 入善町於、「まちなか交流施設 うるおい館」

○出席者

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| ・堀内 康男 黒部市長 | ・藤平蔵 芳光 富山県生活環境文化部参事 |
| ・笹島 春人 入善町長 | 環境保全課長 |
| ・金島 光一 朝日町副町長 | ・河村 幹治 富山県農林水産部次長 |
| ・中島 孝雄 富山森林管理署長 | ・加藤 昭悦 富山県土木部次長 |
| | ・吉津 洋一 関西電力(株)北陸支社長 |
| | ・入江 靖 北陸地方整備局河川部長
(座長) |

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力(株)北陸支社

●議 事

- (1)平成27年度連携排砂計画(案)について
- (2)平成27年度連携排砂に伴う環境調査計画(案)について
- (3)第43回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果について
 - ① 平成26年度宇奈月ダム貯水池内ボーリング調査結果について
 - ② 大粒径土砂の移動状況調査について
 - ③ 海水温とORPの関係について
 - ④ 第43回黒部川ダム排砂評価委員会評価について
- (4)平成27年度連携排砂計画及び連携排砂に伴う環境調査計画に関する
関係団体からの意見と対応について
- (5)その他

●協議会の結果

- 平成27年度連携排砂計画、平成27年度連携排砂に伴う環境調査計画については、了承する。
- 連携排砂実施にあたっては、今回出された意見を踏まえて、適切に実施されたい。

(1) 平成27年度連携排砂計画(案)について

座長

ただいまの説明につきまして質問、意見がありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

座長

特段なければ、次の議題に行きたいと思います。

(2) 平成27年度連携排砂に伴う環境調査計画(案)について

座長

これまでの調査結果を分析して、環境調査計画の内容を変更するというご説明でした。ただいまの説明につきまして質問、ご意見がありましたらお願いします。

A委員

いろんな地点で水質、底質あるいは堆積、場合によっては水生生物等の調査が行われていることは重々、説明をいただいたわけでありますが、昨年、県漁連の方でも何か富山湾全体の調査をされたということを聞いておりますが、この調査との関連といいたいまいしょうか、データをいただいて分析をされたというようなことはあるかお聞かせいただければと思います。

座長

事務局から回答をお願いします。

事務局

先ほどお話にありました富山湾の定期的な調査につきましては、今年の3月に発表されたところであります。私どもとしてはそのデータが手元に届いたばかりでございますので、これから分析をして、排砂による影響等がないかどうか、照査してまいりたいと考えております。

A委員

よろしく願いいたします。

座長

他にありましたらお願いします。

[質疑なし]

座長

では、議題3番、第43回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果につきまして、①から④まであわせてお願いします。

(3) 第43回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果について

- ①平成26年度宇奈月ダム貯水池内ボーリング調査結果について
- ②大粒径土砂の移動状況調査について
- ③海水温とORPの関係について
- ④第43回黒部川ダム排砂評価委員会評価について

座 長

第43回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果ということで、4点のご報告をいただきました。

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

B委員

大粒径の上流部から下流部への移動というのは、この黒部川にとって大変大事なテーマだと思っております、できるだけ早く参考になるデータを探ってもらいたいと思います。黒薙の合流部から愛本の下流までに、大きさはここに示されているようなもので数十個と書いてあるのですが、参考になるデータが採れなかったというようなことにはならないようにする必要があると思います。

実験する河川の距離が結構長いですから、数十個程度でうまく採れるのかなとも思います。できるだけ早くこのデータを探ってもらって、上流部から下流部へどうやって移動するか、ここが非常に大事だと思いますので、よろしくをお願いします。

座 長

事務局から何かコメントはありますか。

事務局

センサーにつきましては一部高価な部分がありまして、できるだけ効率的に実施できるよう、今年度、全て使うわけではなく、一部の箇所様子を見て、その様子を確認してからもっと効率的な調査地点を選んで、できるだけ安く効率的に把握するよう努めたいと考えているところでございます。

B委員

これは非常に大事なデータになると思いますので、多少かかってでもこの調査をしっかりやっていただきたいと思います。

座 長

強いご要望ですので、検討のほどよろしく申し上げます。

他にありましたら申し上げます。

A 委員

排砂評価委員会のコメントの中に、「河川水生生物調査では、他河川のデータを活用しながら」とあるのですが、先ほどの説明では、常願寺川での調査は廃止をすると受けとめたのですが、こういった提言に対して今後どのように考えておられるのかお聞かせいただければと思います。

座 長

事務局、回答のほどよろしく申し上げます。

事務局

前回の排砂評価委員会で、肥満度というものに着目して常願寺川との比較をさせていただきました。その結果については、常願寺川と黒部川において、排砂をする河川、しない河川での大きな違いというのが確認できなかったということで一応の結論を出させていただきました。そのほかに、黒部川でいろんな調査をした場合に、その結果が他の河川と比較してどうであったかということにつきましては、他の河川毎の稚魚放流量との関係とか既存の調査との比較をできるだけして、その違いについて検討を加えたいと考えております。

A 委員

黒部川の水生生物についてだけではなくて、やはりほかの河川との比較というのは大事になってくるのではないかなと思っているわけですが、今後そういった、常願寺は別としても、ほかの河川との比較というのはされないということによろしいのでしょうか。

事務局

河川においては定期的に、5年に1回の河川の水生生物調査というものも実施しております。これは直轄で管理している河川では必ず実施しているところであります。そちらのデータと比較しながら、黒部川単独の事象なのかといった検討を加えていきたいと考えております。

A 委員

この黒部川の排砂前のデータというものがあれば一番いいのかもしれませんが、比較をすることがなかなか難しいということでもありますから、できればほかの河川との比較というものをぜひ検討していただきたいと。これは要望でございます。

座 長

何か回答はありますか。もうよろしいですか。

これはあえて特別な調査はしなくても、例えば常願寺川とか庄川とか神通川でも定期的に調査をしていますので、それとの比較はやりますということでもよろしいですね。

座 長

他、よろしいでしょうか。

[質疑なし]

座 長

では、議題の1から3まで終わりました。

(4) 平成27年度連携排砂計画及び連携排砂に伴う環境調査計画に関する関係団体からの意見と対応について

座 長

ただいまの報告につきまして意見、質問がありましたらお願いします。

[質疑なし]

座 長

特段なければ、次の議題に移らせていただきます。

(5) その他

座 長

最後に、全般を通して質問、意見がありましたらお願いします。

B委員

先ほど冒頭でありましたように、連携排砂を行って14年経ちまして、今ほど報告もありましたように、だんだん技術的にうまくできるようになって、大きな変化はないという報告だったと思っております。

そういう中で、そろそろこの黒部川あるいは黒部川流域をどういう環境の河川にしていくんだというような目標、ビジョンみたいなものを持つ必要があるのではないかなと思っております。

昨年8月に、立山黒部ジオパークとして、県東部が日本ジオパークの認定を受けました。さらに、2019年、東京オリンピックの前の年までに世界ジオパークの認定を受けたいと今進めているところであります。

その中で、立山黒部ジオパークのエリアで、黒部川流域というものが最も特徴のある、素晴らしい特性があると考えております。今確認されている氷河もそうですし、V字峡の黒部峡谷や名水や伏流水やそれで育った農作物など、大変大きな特徴があります。そういう意味では、この黒部川が将来どのような河川になっていくのか、いきたいのかというようなビジョンを持って、それに向かって進んでいくようにしていかなければならないと思っております。ここまで、連携排砂が全国で初めて行われて、うまくできるようになってきましたから、さらに次のステップとして、どういう河川を目指すかというような共通認識を国や県や市町村、関係機関が持つということが必要ではないかなと思っております。そういうことの認識を持ちながらビジョンを整理していく、そういう段階に入ってきているのではないかなと思っておりますので、今この場で議論ということではなくて、そういうことも含めて、今後この地域を守っていきたいと思っております。

座 長

貴重なご提言ありがとうございました。

他にないようでしたら、まとめさせていただきます。

まず、本日の議題の1番目、平成27年度連携排砂計画についてですが、今年度は目標排砂量が約16万 m^3 、変動範囲は6万 m^3 から27万 m^3 というご説明。それから、宇奈

月ダム直下流のSSピーク低減策として、水位低下速度を遅くするという取り組みをやるというご報告がありました。

続きまして、2番目の平成27年度連携排砂に伴う環境調査計画につきましては、これまでの調査結果の分析などを踏まえて、調査内容の変更、場合によっては増えるものもありますし頻度を減らすものもあるというご説明がありました。

また、最近、県漁連が行った調査結果の取り扱いについて質問がありましたが、それについては、最近データをいただいたので、これから検討項目の中に加えるという回答がありました。

3番目、第43回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果についてですが、まず①の宇奈月ダム貯水池内ボーリング調査結果については、結果報告がありました。

②の大粒径土砂の移動状況調査につきましては、これからの取り組みに関するご説明がありました。

B委員から、できるだけ早く参考になるデータを集めてほしいという要請がございました。

③海水温とORPの関係について、これは評価委員の方から要請があつて分析などを行いましたが、あまり明確な関係性はなかったという報告がありました。

④第43回黒部川ダム排砂評価委員会評価についてご報告がありました。

A委員から、ぜひ他の河川との比較調査を引き続き実施していただきたいという要望がありました。

(4)平成27年度連携排砂計画及び連携排砂に伴う環境調査計画に関する関係団体からの意見と対応につきましては、意見と対応方針につきまして報告がありました。

最後、その他の中で、B委員から、この連携排砂も14年経って大体うまくいっている。次のステップに進むべきではないかということで、黒部川の将来のビジョン、目標をどう持っていくべきかみんなで考えるべきだというようなご提言がありました。これは、今日ご提言をいただいたものとして受け取らせていただきます。

以上のまとめを踏まえまして、実施主体である国土交通省と関西電力株式会社において、平成27年度の連携排砂などを適切に実施することによろしいでしょうか。

座 長

特に異議がありませんので、では平成27年度連携排砂計画及び平成27年度連携排砂に伴う環境調査計画につきましては了承されました。

連携排砂実施に当たっては、今回出された意見を踏まえて適切に実施するということを
まとめといたしまして、本日の議事を終了いたします。

熱心なご議論ありがとうございました。